

【報告】

基幹研究「人類学におけるミクロ-マクロ系の連関」第一回公開合評会
「藤野陽平著『台湾における民衆キリスト教の人類学』（2013年，風響社）」

日時：

2015年7月4日（土）16:00-19:00

場所：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階マルチメディアセミナー室（306号室）

内容：

1. 藤野陽平（AA 研研究機関研究員）
著者による概要説明
2. 津田浩司（東京大学），本田洋（東京大学），田中雅一（京都大学）
コメント
3. 全体討議

司会：深澤秀夫

参加者：参加者 18 人（うち外国人 2 人）

内容：

はじめに著者である藤野陽平が本書の概要を 1 時間程度で説明した。その際には書籍の文字データでは取り扱いにくい、儀礼や、信者らに聖霊が降臨することで語る霊言、宗教者が問題を抱える信者らに手を置いて祈る按手などの動画も紹介することで本書の理解の補助とした。また、近年 AA 研人類学班が取り組んでいる情動という観点において本書の扱った事例からどのような展開が可能かということについて、自らのフィールドでの体験から補足の説明を行った。

これに対して津田、本田、田中の諸氏が 20 分ずつのコメントを行った。津田氏は調査の方法が持つ矛盾点や問題点を指摘しつつも、今後の可能性の大きさを指摘した。本田氏は韓国研究の立場から台湾との比較しつつ、台湾社会における当教会の位置づけについて質問した。田中氏は宗教人類学の観点から、宗教人類学全体のもつ問題点と本書が抱える問題点についてコメントし、今後の展開についても解説した。

3 名のコメントの後、藤野からのリプライの後、フロア全体に開いた質疑応答の時間を設け、議論が行われた。

（記 藤野陽平）

当報告の内容は著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.